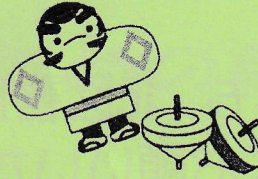


ほうれんそう

<https://www.amagasaki-library.jp/>



《新・尼崎の本棚 107》

尼崎市立北図書館
 尼崎市南武庫之荘3-21-21
 TEL (06) 6438-7322
 FAX (06) 6438-7344

尼崎の絵馬コレクション

絵馬と聞くと神社の境内にたくさんぶら下げられたものを思い浮かべるのではないのでしょうか。かつて絵馬は大きな板に書かれたものも祈願のため奉納されていました。このような大絵馬などと呼ばれる絵馬は市内各地で三百点以上が発見されています。絵柄は三十六歌仙類、十二支の動物画、芝居絵、武者絵、龍神・神馬など多岐にわたります。

長洲天満神社からは阪神淡路大震災の後、屋根の檜皮(ひわだ)を除去し修復を行った際、裁断され補修材として使用された絵馬が発見されました。外気に触れない状態で使用されており、保存状況がよかったため、27面の絵馬が復元されました。奉納年月日から、これらの絵馬は延宝8(1680)年~寛保元(1741)年のものとわかっており、そのうちの「武者図」が市内最古の絵馬となっています。ほうれんそう2022年3月号 第453号/新・尼崎の本棚97回で取り上げたおかげ踊りの様子が描かれた絵馬も、天保2(1831)年に南武庫之荘8丁目にある素戔嗚(すさのお)神社に奉納されています。絵師・桃田江永が描いた絵馬には素戔嗚神社の境内で踊る人々が色鮮やかに表現されています。裏面にはおかげ踊りの由来や規模などの様子が255文字で記されています。

絵馬は当時の文化や生活を窺い知ることが出来る貴重な資料のため、大切に保管されています。

(参考:『南部再生 第32号』尼崎南部再生研究室/編集発行・『尼崎の絵馬』尼崎市教育委員会/編集発行)

◆絵馬はなんのため?

絵馬の起源は神様の乗り物が馬であると考えられていたことから始まります。古来の人々は雨乞いなどの祈願や祈祷の神事などに、神社に馬を献上し神様の降臨を願いました。しかし、生きた馬を献奉するのは容易ではなく次第に簡略化されていきます。最初は馬を型取った土や縄で編んだ像などでしたが、板に馬の絵を描いたものになっていきます。安土桃山時代には大きく立派な大絵馬や額絵馬が流行し、絵の種類も馬だけではなく、様々な絵が描かれるようになります。

一方、今日私たちがよく知る小絵馬も近世末期頃から庶民の間で広まります。個人的な祈願などは小絵馬に書いて奉納しました。現在では絵馬に3Dプリンターなど最新技術が用いられ、神社の個性を活かしたデザイン・色・形が多種多様なものが全国各地に存在しています。神社に足を運んだ際は絵馬に注目するのも面白いかもしれません。

(参考:『願いを叶える全国の神社・お寺の絵馬』マイナビ出版/編集発行)

●「絵馬・ご朱印」についてならこんな本●

- 『絵馬を訪ねて』岩井宏実/著 神戸新聞出版センター 230079919
- 『御朱印のひみつ見かた・楽しみかたがわかる本』メイツ出版/編集発行 212142648
- 『御朱印帳カタログ全国乙女の寺社めぐり改訂版』にほん巡礼倶楽部/著 メイツ出版 212172708

<図書館の休館日>

印の日はお休み

1月

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
⑧	⑨	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	18
⑬	20	21	22	⑭	24	25
⑮	27	28				



1月:睦月(むつき)
 新春に親類や友人、知人が親しみ集い合う「睦みあう月」からきた。また、1年の初めなので「元(もと)月」がなまって「むつき」になったという説もある。
 誕生石:ガーネット
 時候:厳寒、厳冬、真冬、霜柱、時雨、初春、木枯らし、松の内

開館時間 午前9時~午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

明けましておめでとうございます



本年も 北図書館を
よろしく願っています



お知らせ

図書館システムをリニューアルしました！

図書館システムの更新に伴い、館内のOPAC(検索機)や、ホームページ内のレイアウト・操作方法が変更となりました。

ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



チャリティ・リサイクルブックフェア 募金収益のご報告

11月12日(土)に開催しましたチャリティ・リサイクルブックフェアでは、多数のご来場とともに、募金のご協力ありがとうございました。
皆様からの募金の収益をもとに、尼崎琴の浦ライオンズクラブ様から大活字本を寄贈していただきます。

収益の総計:81,982円



<1月展示のご案内>

一般大展示 「ゆく年くる年を本で読む」
2階展示 「キノコの世界」



ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願いいたします

大人のための朗読会

【日時】 1月18日(水) 午後2時から1時間ほど

【場所】 3階 集会室

【内容】 『終電の神様』より

「ホームドア」 阿川 大樹／著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む (****) 富安陽子

1959年～東京都生まれ。児童文学作家。和光大学人文学部卒業。著書に『竜の巣』『かなと花ちゃん』『ゆりの木荘の子どもたち』『ふしぎな月』『博物館の少女』など。

『童話作家のおかしな毎日』

富安 陽子[著]／偕成社

不思議な縁で父と結ばれ、波乱に満ちた人生を駆け抜けた母のこと。戦争を乗り越えた富安家の人々、童話作家・富安陽子のルーツについて綴る。偕成社のホームページに連載された「日々彩々」「ききみみずきん」を中心に著者が加筆訂正したものに家族写真や書きおろしも収録した一冊。

『角野栄子さんと

子どもの本の話しよう』

角野 栄子・高橋 方子・富安 陽子
ほか[著]／講談社

角野栄子と作家たちのユニークな自己紹介にはじまり、お互いへの質問やクイズをとおして、日常や創作方法について自由に語る。JBBY(一般社団法人日本国際児童図書評議会)創立40周年記念の四回にわたる連続鼎談を加筆・再編集して書籍化。

『さいでっか見聞録』

富安 陽子[著]／偕成社

“遠い日の記憶はいつも、まろやかで香ばしい”大の甘党だった祖母と過ごした幼い頃の幸せな思い出、三度引っ越した小学生時代、作家として母としての日常を綴る関西在住作家ならではのユーモアにあふれたエッセイ。月刊誌『クーヨン』の連載ほか、新しく数本を書き加えて単行本化。

『メアリー・ポピンズ』

P.L.トラヴァース[作]・富安 陽子[文]
佐竹 美保[絵]／ポプラ社

さくら通り十七番地のバンクス家にやってきた、子守りのメアリー・ポピンズ。風に乗ってやってきた不思議な彼女と、バンクス家の四人の子供達は、楽しい毎日を過ごすのが……。世界中で愛される名作物語の、シリーズ一冊目から五つを選び、読みやすく再構成。【小学1～2年生】

高校在学中から童話を書きはじめ、25歳でデビュー。『クヌギ林のザワザワ荘』で日本児童文学者協会新人賞・小学館文学賞、『小さなスズナ姫』シリーズで新美南吉児童文学賞を受賞。『空へつづく神話』で産経児童出版文化賞、『盆まねき』で野間児童文学賞・産経児童出版文化賞フジテレビ賞、『さくらの谷』で講談社給本賞受賞。

児童室

おはなし会



第1・第2・第3 土曜日 場所:3階集会室

おひざ (0~2歳くらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~
 大きい人 (小学校低学年) 午後2:40~

1/7 (土)
 ●おひざのうえ
 「まるまるころころ」
 「りんごがころん」

○小さい人
 「ねずみのおいしゃさま」
 「世界でいちばんきれいな声」

○大きい人
 「うそだあ!」
 「三びきのこぶた」

1/14 (土)
 ●おひざのうえ
 「おしりじまん」
 「おめでとうのおふろやさん」

○小さい人
 「しんせつなともだち」
 「だめといわれてひっこおな」

○大きい人
 「おもちのきもち」
 「十二支のはじまり」

1/21 (土)
 ●おひざのうえ
 「すってんころりん」
 「ちゅうちゅうたこかいな」

○小さい人
 「ゆきのひ」
 「あなのはなし」

○大きい人
 「てぶくろ」
 「ミアッカどん」



第3 水曜日
 あかちゃんひろば

場所:1階絵本コーナー
 1/18(水)

午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと保護者向け
 赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



第2・第4 日曜日

場所:1階ロビー

2歳くらいから

1/8(日)、1/22(日)

午前11:00~11:20

季節の絵本や紙芝居など

1

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8 	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18 	19	20	21
22 	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

今月の展示



『ふゆのほん』